



鳥取県立鳥取盲学校

学校だより

第 8 号

校長 竹 信 純 一

平成 2 8 年 1 2 月 2 日

「つながる」をキーワードに、様々な活動にチャレンジ！

小中学部の生活単元学習「交流をしよう」では、地域にある特別養護老人ホーム健推庵こくふに入所されている方々と一緒に活動をする計画を立てて、触れ合いました。

当日の交流では自己紹介や盲学校のいい所、そして文化祭で発表した「みんながみんな英雄」の合奏を披露しました。さいころゲームでは出た目のお題を発表するゲームをし、盛り上がりました。発表やゲームを通して盲学校のことを沢山知っていただいたり、入所されておられる人のことを理解したりして楽しい時間を過ごしました。学習の振り返りでは、お手紙の代わりに替え歌とありがとうメッセージを作って送りました。



修学旅行でシーズアスリートとつながる



11月16日から3日間、中学部修学旅行で博多方面に出かけました。計画の一つに本校にもゴールボール指導で来ていただいた浦田選手や工藤選手の所属されているシーズアスリート（福岡視力障害センター）との交流活動を入れました。施設内見学の後、パラリンピック選手と直接に質問などをしておしゃべりをした後、試合を行いました。残念ながら得点を取ることはできませんでしたが、心地よい汗を流しました。今度は12月に青翔開智中学校とのスポーツ交流で、ゴールボールの指導にお越しいただく予定です。

鳥の劇場祭で盲学校が参加者とつながる



11月に詩人の上田假奈代さんと一緒に「今の気持ちを表す言葉は？」「虹を架けるとしたらどこ？」「楽器以外の好きな音は？」など、自分の考えたことを伝え合う活動をしました。馴染みのないこの活動に子ども達は「題名のない授業」と命名しました。毎回この授業では、始まりと終わりに文字通りみんなで手をつなぎ、つながりも確かめ合いました。11月27日の

「鳥の劇場祭9」では、子ども達、上田さん、来場された方々全員で「題名のない授業」を行いました。ほっとする和やかな空気に包まれた時間が持てました。

人権教育講演会 ～「震災体験者に学ぶ」～

人権教育講演会には、阪神・淡路大地震を体験された全盲の方をお招きして、避難する際の危険や震災への備えなどについてお話を聞きました。地震直後の避難時、周囲の状況が一変し、ほこりっぽく焼けた匂い等が充満し、一人では歩くことができなかったそうです。災害の備えとして、水や大切な書類など最低限の物をまとめておくだけでなく、近所とのつながりをしっかりもち、日頃からどんな手助けが必要なのかを周囲に伝えていくことや目が見えないことを隠さないことも大切なことだと、話されました。



課題研究発表会を開催しました！

自分で選んだテーマについて書籍や臨床実習等を通して調べ、まとめたことを専攻科生徒2名が発表しました。生徒のテーマは、「糖尿病と東洋療法」や「あん摩による筋硬度の変化」というものでした。それぞれ書籍だけでなく、治療室で行っている施術の中で機器を利用したデータも織り込んで、科学的な根拠を示しながら発表しました。将来、あはき師になれば施術を行うだけでなく、常に研究にも励み、より専門的な知識や技術などを深めていくことが大切です。この課題研究の実践がその基盤づくりに大きな役割を果たしています。

～鳥盲教育を語る会の意見から～

1学期に開催した「教育を語る会」において保護者の皆さんからご意見やご要望が出されことに対して次のように取り組んでいますので、お知らせします。

○進路に関する情報提供について

- ・障がい福祉サービス事業所説明会の案内(9月)
- ・事業所見学(12月)機会の設定
- ・講演及び座談会(2月)

○体育の授業以外でも水泳の機会を設けてほしい

- ・夏休みのプール利用
- ・9月上旬まで水泳を実施

○部活動の回数を増やしてほしい

- ・放課後に会議などがあり回数増は難しいが、近隣の学校の部活動に参加することを検討している。

12月行事予定

1日(木)～2日(金) 期末考査

2日(金) 青翔開智中との交流

5日(月)～16日(金) 懇談週間

5日(月) 理療科生徒・職員研修

8日(木) あん摩奉仕(保理・専)

9日(金) 事業所見学(そよかせ)

保護者参加

教育相談・寄宿舎研修

運営委員会

12日(月) 部活動、点字・PC教室

14日(水)～15日(木) 模擬試験(専3)

14日(水) 3校交流会(中)

職員会議

15日(木) 青翔開智中との交流

16日(金) クリスマス会

県内弱視学級交流会

21日(水) 終業式

22日(木) 寄宿舎職員研修

22日(木)～1月9日(月) 冬季休業日

1月10日(火) 始業式